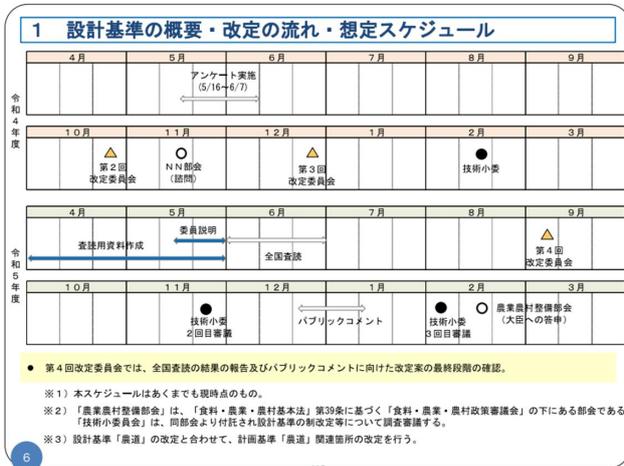


<業務>

受注者名	業務名 (業務場所)	表彰理由
内外エンジニアリング(株)	令和5年度土地改良技術設計基準 「農道」改定参考資料作成業務 (京都市伏見区深草大亀谷大山町官有地)	業務内容を踏まえ、過去の設計基準改正に関連する業務や一般土木、事業計画、環境配慮及び事業誌編纂の経験を有する4名の技術者による豊富な経験を活かし成果の品質確保・向上を図る体制を整備した。 全国査読による約900件の意見に対する分類、処理方針案を分かりやすく整理し改正案に反映させた。とりわけ、委員意見の小規模な農道の舗装施工については人力施工時の留意点を現場条件を踏まえ適切にとりまとめた。 別途改定が予定されている計画基準「農道」との整合を図るため、査読意見や対応方針の確認及び整合作業に各技術者の知見を活かし迅速に対応した。 委員意見の「公用文作成の考え方」(文化庁)による外来語の表記修正作業にも適切に対応した。 以上のとおり、本業務は品質確保の体制が充実し、成果が特に優秀で、他の模範となるものである。優良業務として推薦するものである。
概要		
土地改良事業計画設計基準・設計「農道」の令和5年度末の改定に向け、改定検討委員会の意見等の対応方針を検討し、設計基準「農道」の最終改定案を作成する業務。		
【主要業務】		
1. 査読意見のとりまとめ		
2. 改定検討委員会資料の作成		
3. 食料・農業・農村政策審議会資料の作成		
4. パブリックコメント用資料の作成		
5. 最終改定案の作成		
【工期】令和5年4月19日～令和6年3月13日		
【契約金額】22,374,000円(税込み)		

【業務状況等】

改定スケジュール



委員意見への対応

13.2.9 コンクリート版の施工

(1) 概要

コンクリート版の施工は、適切な施工計画を立て、所要の出来形と品質及び性能を確保するように行う必要がある。施工の良否は、コンクリート版の強度、日地の挙動、平坦性等に与える影響が大きいため、適切な施工管理が重要である。ここでは、普通コンクリート版の施工について、セットフォーム工法及びスリップフォーム工法といった機械施工や、簡易な施工機械及び人力による施工法について、具体的な舗装方法及び留意事項、初期及び後期養生の方法、暑中及び寒中施工における対策、初期及び割れについての対策等を示す。

なお、簡易な施工機械及び人力による施工法が適切となる場合の目安は、おおむね以下のとおりであるが、その場合も機械化施工の場合と同様に、所要の出来形と品質及び性能が得られるよう施工を行う。

- ① 施工規模：施工延長200m程度以下、日施工量300m²程度以下、施工幅員3m程度以下
- ② 区間特性：目地割りが複雑で人孔等が多くある場合
- ③ 構造特性：鉄筋コンクリート版であるような場合

査読意見への対応

表4.4 技術小委員会の主な指摘事項と処理方針(案)

関係事項	指摘事項	処理方針(案)
技術書 3.4.1 幅員	特例値の廃止について、農水省HPに農作業の事故が公表されている。農道の種類及び利用形態に応じて利便性、経済性及び事業効果の早期実現等を考慮し、地域住民の意向を踏まえ総合的に検討した上で、幅員を決定するものとする。また、近年は農業機械及び除雪車の大型化や自動走行農機の導入により、農道の通行性が求められる。加えて、農道では排水施設による事故が多く、更なる安全性も求められており、農道での通行性や安全性を考慮した検討を行うことが重要である。 なお、参考として、農林水産省では「農作業発生事故の発生状況」を毎月公表している。 (農作業発生事故の発生状況: https://www.maff.go.jp/j/eisam/eisam/eisam/a_kitaku/eisam/hito_kobo.html)	
技術書 3.4.4 歩道、自転車道及び自転車歩行者道	前回の指図で基準書の図面をわかりやすいものに変えていただいたが、技術書(図-3.4.9~3.4.12)についても同様にお願いしたい。また、モノクロ写真については、可能であればカラー写真に変えていただきたい。	
技術書 4.4.3 基礎地盤の凍結化	設計基準「農道」では盛土等の土工構造物を対象とするものであることから、日本道路協会の「道路土工-軟弱地盤対策工指針」(平成24年8月)の標準値を採用している。 一方、設計基準「道首工」では河川構造物を対象とするものであることから、国土交通省の「河川構造物の耐震性能調査指針-解説-IV-水門・橋門及び堰門」(令和2年2月)の標準値を採用している。	

外来語表記への対応

4.1 外来語の確認及び修正等

外来語の表記について、「公用文作成の考え方」(文化庁)に従い、改定する農道基準の記載(長音符号等)を確認し修正を行った。その際に、「公用文作成の考え方」中で、長音は、原則として長音符号を用いるように示されている。ただし、慣用に従い、長音符号を用いずに書く例もあると記載されている。
そこで、専門的な単語の外来語表記については、現行と「日本建設機械業協会」、「積算基準」の記載を合わせて確認した上で、最終的な表記を決定した。

表4.1 外来語表記の検討方針

No.	外来語表記状況	外来語表記検討方針
①	変換及び積算基準が整合している。	変換及び積算基準の用語にあわせる。
②	変換or積算基準のどちらかで表記ゆれがある又は記載なし。	整合がとれている又は記載のある図面にあわせる。
③	変換と積算基準で方針が異なる。	基本的な積算基準にあわせることとする。
④	どちらも表記ゆれ又は記載なし。	個別検討。

表4.2 外来語表記検討例

外来語(現業表記)	長音の有無(○:長音あり,×:なし)	日本建設機械業協会	積算基準	最終表記	備考
オーガ	○	×	×	オーガ	変換、積算基準と整合
オーバーフロー	○	表記ゆれ	記載なし	オーバーフロー	「外来語の表記」図「留意事項」の2,図,3に、「オーバーフロー」の例あり。
クローラ	○	×	×	クローラ	変換、積算基準と整合
タイプインサータ	×	記載なし	記載なし	タイプインサータ	末尾が「er」のため、「公用文作成の考え方」に従い長音ありとする。
ビニール/ビニル	表記ゆれ	表記ゆれ	表記ゆれ	ビニル	JIS K 6741を参考に、「ビニル」とする。